砂浜生態系に侵入したセアカゴケグモと在来・外来生物との相互作用

○高木俊1・土岐和多瑠2・吉岡明良3（1兵庫県立人と自然の博物館, 2京都大学生態学研究センター, 3国立環境研究所）

セアカゴケグモは1995年に日本への侵入が確認されたオーストラリア原産の外来種で、現在では日本各地の都市や港湾部といった人工的環境での生息が報告されている。人に対して毒性を示すため、これまで都市域での公衆衛生の観点からのリスク評価が行われてきたが、在来種との相互作用関係や生態系への影響はほとんど明らかになっていない。乾燥した人工的環境を営巣場所とするため、自然環境への侵入可能性は低いと想定されてきたが、人為的改変を受けた半自然環境では、セアカゴケグモの侵入・定着や在来希少種への負の影響の可能性も考えられる。

愛知県知多半島における発表者らの調査から、海浜性砂丘に隣接するコンクリート護岸でセアカゴケグモの生息および繁殖が確認された。本発表では、準絶滅危惧種を含む砂浜性昆虫に対する捕食事例や、海浜性外来植物への営巣事例といった、他種との相互作用に着目して、人為改変を受けた砂浜生態系におけるセアカゴケグモの潜在的な影響について報告する。